

## 2019富士チャンピオンレース第6戦 Inter Proto Series power by KeePer第7&8戦 KYOJO-CUP第4戦 [JAF公認No.2019-1025]

開催日：11月16～17日 開催場所：富士スピードウェイ 格式：準国内 主催：富士スピードウェイ(株) [団体登録No.公認13003]、  
FISCO-C [クラブ登録No.公認13008]、SMC [クラブ登録No.加盟22003]

フォト/服部真哉 レポート/秦直之

好バトルが展開されたFCR-VITAはPP獲得の、いむらせいじ選手が優勝。



## 白熱のFCR-VITA 決勝は、いむらせいじ選手が優勝

**秋**も深まった11月16～17日に、富士スピードウェイを舞台に富士チャンピオンレース第6戦が開催された。

24台のエントリーを集めたFCR-VITAは、すでに3戦3勝でチャンピオンを武村和希選手が確定させているが、予選を前にしてリタイアの波乱が。「エンジンにトラブルを抱えてしまい、スペアはあるんですが、慣らしをまったくやっていないのでリスクも大きいので。残念ですが、仕方ありませんね」と武村選手。

これで一気に色めきだったのが、ランキング2位を争い合うイノウエケイイチ選手と、いむらせいじ選手。「ピットの位置が良かったので、ほぼクリアで走り続けられました」と語るいむらせいじ選手が、イノウエ選手を従えてポールポジションを獲得した。

決勝では予選3番手の瀧井厚志選手が、いむらせいじ選手を1コーナーのインから抜いてトップに浮上。逆にアウトから攻めたイノウエ選手は4番手まで後退してしまう。それでも並木俊貴選手を3番手に4台で激しいトップ争いを繰り広げ、4周目には、いむらせいじ選手がトップに浮上。

その後、瀧井選手は離されたものの、なおも3台でのバトルは続いていた。最終ラップのゴール直前でイノウエ選手がスリップストリームから抜け出したものの、いむらせいじ選手はコンマ1秒差で逃げ切りに成功した。「富士で勝つのは2016年以来、3年ぶり。面白かったです。当時よりレベルが上がっていて、お互いを配慮したバトルができました」と語ったいむらせいじ選手が、イノウエ選手を逆転し、ランキングでも2位につけることとなった。

スーパーFJでタイトルを争うのは、木下藍斗選手と小村方章選手ながら、上手にかき回してくれたのが下野璃央選手だった。予選でトップタイムを木下選手が記録するも、複数の走路外走行のペナルティとして3グリッド降格となり、ポールポジションには下野選手が。間には小村方選手と村松日向子選手を挟むこととなった。

決勝では下野選手がスタートを決めて、オープニングラップだけでコンマ8秒の差をつけ、その後もアクセルを少しも緩めずに快走。その後方では3台による2番手争いが激しく、7周目に木下選手が2番手に上がったが、その時すでに下野選手は遥か彼方に。下野選手はオートポリスシリーズ第4戦以来の優勝となり、複数のサーキットで優勝を挙げた女性ドライバーとしては、2010年の神子島みか選手以来の快挙となった。「11秒離せて満足です。オートポリスの時より倍以上も離れたので。ええ、ずっとプッシュして走っていました！」と下野選手。

一方、2位に入り、チャンピオンは確定したものの、木下選手は「スタートからの数周でペースが上げられなくて、そこで詰まってしまったのが痛かったですね。チャンピオンの実感はあ

1



1. LOTUS CUP JAPAN Class1は山本健一選手がポール・トゥウ。ウィン。2.同Class2では松尾修選手が優勝を飾った。

2







3. Inter Proto (IP) Gentleman 第7戦Gクラス優勝のおとる君選手。4. CCS-R Gentleman 第3戦優勝の山口達雄選手。5. IP Gentleman 第8戦Gクラス優勝の大蔵峰樹選手。6. CCS-R Gentleman 第7戦優勝の今井孝選手。7. SUPER FJ はPPからのスタートとなった下野瑠央選手が優勝した。8. IP Gentleman Eクラスで2連勝達成の永井秀貴選手。9. KYOJO-CUP は村松日向子選手が予選3番手から逆転優勝を飾った。10. CCS-R Professionalクラスで連勝を飾った山内英貴選手。11. KYOJO-CUP で2位入賞の翁長実希選手。12. IP Gentleman 第7戦Gクラス2位入賞のけんたる選手。13. SUPER FJで2位入賞の木下藍斗選手。14. FCR-VITAで2位入賞のイノウエケイイチ選手。15. CCS-R Gentleman 第7戦表彰の各選手。16. IP Gentleman Eクラス第7戦表彰の各選手。17. SUPER FJ表彰の各選手。18. KYOJO-CUP 表彰の各選手。19. FCR-VITA表彰の各選手。20. KYOJO-CUPで3位入賞の星七麻衣選手。21. FCR-VITAで3位入賞の並木俊貴選手。22. SUPER FJで3位入賞の小村方喜章選手。23. IP Professionalクラスで連勝した坪井翔選手は逆転でシリーズチャンピオンも獲得。24. LOTUS CUP Class2で2位入賞の秋葉有一選手。25. FCR-VITAで4位の瀧井厚志選手。26. FCR-VITAで6位の村松日向子選手。27. FCR-VITAで5位入賞の下垣和也選手。

んまりないです」と、複雑な表情で語っていた。

インタープロトシリーズのジェントルマンクラスは、2戦ともに永井秀貴選手がポール・トゥ・ウィン。確定したチャンピオンに華を添えた。レース2ではスピも喫したが、それでもトップを譲らず。「課題としていたコーナーを攻めていった結果ですし、次の周にはファステストラップも出せたので、より実りあるレースになりました」と永井選手。

インタープロトシリーズのプロフェッショナルクラスでは、宮田莉朋選手がPPを奪うが、レース1では坪井翔選手が食らいついて離れず、6周目の1コーナーで坪井選手が逆転して、僅差ながらも逃げ切り、続くレース2では逆に

宮田選手の猛攻を受けたものの、最後までガードを固め続けて連勝を飾るとともに、シリーズチャンピオンも確定させた。「思っていなかった最高の結果になりました！」と坪井選手。

KYOJO-CUPではスーパーFJとダブルヘッダーとなった、予選3番手スタートの村松日向子選手が逆転で優勝を飾り、シリーズチャンピオンも僅差で獲得、と最高の形で締め括っている。

ロータスカップジャパンは山本健一選手がポール・トゥ・ウィンを達成。スタート直後のヘアピントで飯田敏雄選手の先行を許すも、3周目の1コーナーで逆転してからは、もうトップを明け渡すことはなかった。「トップでチェッカーを受けて、気持ちよくシーズンを終えることができました」と山本選手。クラス2は松尾修選手の優勝となった。